

令和8年度 当別町立西当別小学校グランドデザイン



西当別小学校の教育目標

- 心ゆさぶる感性(のびのび語り合う子)
- 学びを求める知性(ぐんぐん学び合う子)
- 生き方を磨く個性(もりもりきたえ合う子)

9年間で育てたい児童生徒像

- 自らの力で人生をデザインできる子ども
～確かな学力、自ら学ぶ意欲、健全な心身～
- しっかりとしたコミュニケーションができる子ども
～コミュニケーション力、豊かな人間性～
- 地域を愛し、地域の良さを紹介できる子ども
～郷土愛、プレゼンテーション力～

西当別小で育成する子どもの具体的な姿<資質・能力>

- 目標に向かって、何事にも前向きに取り組むことができる子
- 対話を通してよりよい解決策を見出すことができる子
- 自分と他人を肯定的にとらえることができる子
- 健康づくりのために、運動に親しむことができる子
- 故郷「当別」のよさを理解し人に伝えることができる子

資質・能力(能力、資格、適正) = competency (the ability to do something well (物事をうまく行う能力))



教育活動に関すること

(児童のウェルビーイング)

【西当別小学校の使命】 家庭や地域と協働した「楽しい学びの場・自ら学びを深める場」の充実

現状

令和7年度までの課題

- 児童の自己肯定感については令和7年度までの取組により一定の改善が見られたが、全ての児童の自己肯定感を高める入学時から一貫した取組を継続していく必要がある
- 共感的な人間関係の構築など、良好な人間関係づくりを充実させる必要がある
- 保護者や地域と一体となり、子どもにとって、学校が楽しく学べる場所となる取組を進めていく必要がある
- 主体的に学びを進めていく姿勢をより一層育んでいく必要がある。(家庭学習の充実)

課題解決に向けた取組

- ◎ 「好きと得意」を伸ばす教育活動の推進
- ◎ ICTを有効に活用できる力の育成
- ◎ 自己の生活を自ら調整する力の育成
- ◎ 個々の教育的ニーズに基づいた特別支援教育の充実
- ◎ 幼保・小・中及び地域との連携強化

学校

- ・ 「好き」や「得意」を伸ばす教育活動の積極的な推進と「深い学び」の確実な実現
- ・ ICTを活用して学びを深めるための支援の充実
- ・ 複数の目による一貫した児童への指導の充実
- ・ WEBQ U等を踏まえた発達支持的な教育活動の充実
- ・ 個別の教育的ニーズに基づいた支援体制の充実と児童や保護者が相談しやすい体制の整備
- ・ 幼保小及び小中間における教育課程の内容面での連携強化

◇令和8年度の重点◇

- ★ 深い学びを実現する授業の推進
- ★ ICTの有効活用
- ★ 学校種間の連携強化
- ★ 所属感を高める教育活動の充実
- ★ 児童の発達を支える指導の充実

強固な「チーム西当小(学校・家庭・地域)」による教育活動の推進

家庭

- ・ 家庭での学習時間増加への協力
- ・ 生活習慣の改善
- ・ 学校との積極的な情報共有
- ・ P T A活動への積極的な参加
- ・ 校内環境整備への協力
- ・ 所属感を高める教育活動への積極的な協力

地域

- ・ 健全育成活動への協力
- ・ 教育活動への協力
- ・ 学習及び生活環境整備への協力
- ・ 働き方改革を含む環境整備への協力

<楽しい学びの場とは>
・ 他者と協調しながら、自身の成長を実感できる場所

<自ら学びを深める場とは>
・ 「できた」喜びがあり、失敗を恐れずにチャレンジできる場所

<目指す組織像>

教育活動の質の向上に向けて、組織の一員として課題を自分事としてとらえ、協働して課題解決にあたる組織

成果の検証

- ・ 全国学力・学習状況調査
- ・ N R T (標準学力検査)
- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査
- ・ 保護者アンケート
- ・ 自己評価
- ・ 学校関係者評価
- ・ 児童学校生活アンケート

<指導の共通認識>
児童の不安に寄り添い、自信をもって前に進めるように背中を押す
① 主訴を把握する
② 児童の特性を理解する(得意、不得意、背景など)
③ 解決の方法と一緒に考え、見通しをもたせる
④ 不得手なこと、できないことをチームで支える
⑤ フィードバックを与える

令和8年度末の児童の姿

- ・ 学びの場を楽しんでいる
- ・ ICTを活用して自らの学びを深めている
- ・ 家庭での学習時間が増加している
- ・ こども園から中学校までの一貫したカリキュラムで学びを深めている



教育活動に従事する教職員に関すること

(教職員のウェルビーイング)

働き方改革の目的

教員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになること

=課題解決に向けた取組=

- ◎ 働き方改革推進チームによる業務量や分担等の見直し
- ◎ 学習内容の精選等による、子どもと教師にとって負担のない教育課程の編成を検討
- ◎ 学校の課題解決に向けた関係機関との連携強化
- ◎ 毎月の定時退勤日の設定(2回)
- ◎ ICT等の活用による業務の効率化
- ◎ 休暇を取得しやすい環境の整備

◇令和8年度の重点◇

- ★ 授業時数の適正化に向けた教育活動等の見直し検討
- ★ ICTを活用した業務効率化の推進
- ★ 教職員のウェルビーイングの確保

- ・ 校内の組織体制の見直し
- ・ 変形労働制等の適切な運用
- ・ 総授業時数の適正化に向けた取組の検討
- ・ ICT等を積極的に活用した業務効率化の推進

<成果の検証>

- ・ 自己評価
- ・ 学校関係者評価
- ・ 勤務実態記録



Work Life Balance

令和8年度末の職場の姿

- ・ 業務の平準化が図られた組織になっている
- ・ 子どもや教師にとって負担が少ない教育課程の編成・実施に向けて組織が動いている
- ・ 時間外在校等時間の年間の月平均が30時間未満となっている
- ・ ICTを効果的に活用して教育活動の質の向上が図られている